

福島子どもプロジェクト2024夏

海でつながるアジア
自然と歴史を学び平和を育む船旅

活動の記録



PEACE
BOAT

PBV
ピースポート
災害支援センター



福島子どもプロジェクトとは

2011年の東日本大震災と原発事故直後、福島県の子どもたちは「屋外で十分に身体を動かさない」「仮設校舎や避難先で落ち着いて勉強できない」など厳しい生活環境を余儀なくされました。

そこでピースボートは、子どもたちに夢と健康を届けたいとの思いから、保養と国際交流体験を提供する「福島子どもプロジェクト」を震災直後に立ち上げました。そして、船上での体験プログラムや滞在型の環境学習など、さまざまな取り組みを実施してきました。このプロジェクトは、南相馬の子どもたちに保養や教育を提供するNPO「南相馬こどものつばさ」など現地パートナー団体と協力しつつ、ピースボートとピースボート災害支援センター（PBV）が共同で実施しています。

福島の子どもたちが置かれた状況は、時間と共に変化し複雑にもなっていますが、ピースボートは子どもたちのさまざまなニーズを聞き取りながら、支援活動を続けていきます。

プロジェクト呼びかけ人

鎌田 實（諏訪中央病院名誉院長）

香山 リカ（精神科医）

田中 優（環境活動家/未来バンク代表）

現地パートナー団体

当プロジェクトは、2011年の初回より、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しています。同団体が、ピースボートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行っております。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

東日本大震災による原発事故発生後、放射能の影響により戸外での活動制限が続いていた子どもたちを、心身ともに解放したいとの願いから2011年6月に発足。市内小中学校PTA連絡協議会のメンバーと県外の支援者が手を結び、学校の長期休暇期間に保養を目的とした林間・臨海学校を提供する活動を続けている。



<https://www.kodomonotsubasa.com/>

福島子どもプロジェクトのこれまで

これまでにのべ100名以上の子どもたちが、福島子どもプロジェクトに参加しました。

「夏休みアジアクルーズ 2011」（2011年7～8月）

南相馬市の中学生49名がピースボートの船旅に約一週間参加。ベトナムでの枯葉剤被害者との交流や、スリランカ大統領夫人との面会、2004年のスマトラ島沖地震による津波の被害者とも交流。

「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」（2012年7～8月）

福島の高中生7名がピースボートの船旅に約一か月参加。米国やメキシコで現地楽団と合同コンサートを行ない、船上でベネズエラ「エル・システム」のメンバーと交流。帰国後には歌手の加藤登紀子さんやN T T東日本東京吹奏楽団のメンバーらと交えたコンサートを東京都内で実施。

「2013春 in オーストラリア」（2013年3月）

南相馬市の中学生12名がオーストラリアの家庭でホームステイを行う。現地の学校訪問や風力発電施設やパーマカルチャーガーデンでの環境教育等を通して、持続可能な地球の未来について考えた。

「2014春：異文化を体験するアジア国際交流の旅」（2014年3月）

南相馬市の中学生12名がピースボートの船旅に参加。シンガポールでのアート・ワークショップ体験や、スリランカの津波経験者との交流を行う。

「2015年 春：海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」（2015年3月～4月）

南相馬市の中学生12名がピースボートの船旅に参加。韓国の済州島では火山島の森のトレッキングや餅作り体験を通して自然との共存について、広島では原爆ドームなどを訪れ戦争と平和について学びました。

「福島子どもプロジェクト2016年夏 平和なアジアは友達作りから」（2016年7月～8月）

南相馬の中学生11名、熊本地震で被災した南阿蘇村の小中学生25名がピースボートの日韓クルーズに参加。船内で多国籍の参加者と交流、長崎の平和公園、沖縄では南部戦跡を訪れ、平和について考えました。

「福島子どもプロジェクト2017年夏 南相馬から世界へ 海で繋がるロシア・韓国・日本」（2017年7月～8月）

南相馬市の中高生11名がピースボートの日韓クルーズに参加。船内での国際交流だけでなく、韓国の麗水では歴史を学び、ロシアのウラジオストックでは地元のボーイスカウトのサマーキャンプに参加し、異文化体験をしました。

「福島子どもプロジェクト2019年夏 東アジア国際交流の船旅」（2019年8月）

南相馬市、相馬市の中学生3名がピースボートの船旅に参加。北海道では泊原発を見学し原発について考え、暮らしてエネルギーについて学びました。宮城では石巻市の街歩きを通して、津波の被害と復興について考えました。

「福島子どもプロジェクト2022年夏 世界遺産の厳島神社、原爆ドームへ行く広島・夏のピーススタディー」（2022年8月）

南相馬市の中学生2が広島でのスタディツアーに参加。平和式典を行う前後の広島で、戦争遺構巡りや被ばく証言などに耳を傾け、広島の文化や歴史を学ぶとともに、改めて、日本や世界の平和について考えました。

「福島子どもプロジェクト2023年夏 夏の広島を舞台に、学び体験するピーススタディーツアー」（2023年8月）

南相馬市の中学3年生が4名、中学1年生が3名参加。2022年に引き続き、広島へのスタディーツアーを行いました。原爆資料館訪問や被爆証言聴講などを通しての平和学習はもちろんのこと、自然豊かな似島でのフィールドワークや体験教室など、学びも遊びもたっぷり取り入れたプログラムを実施しました。

福島子どもプロジェクト2024夏

今年「海でつながるアジア 自然と歴史を学び平和を育む船旅」をテーマに、世界自然遺産が広がる韓国の済州島や、京都の舞鶴、金沢、北海道の小樽、函館を訪れ各地域の歴史や文化を学びます。また、船内では日本や中国、韓国などから集まる参加者との国際交流や語学レッスン、平和学習などを通して、国際的な視野を広げるプログラムを実施しました。



◆期間
2024年7月30日～8月10日 12日間
ピースボート2024年夏のショートクルーズに乗船

◆行程概要

日付	活動場所	活動内容
7月30日(火)	神戸(兵庫県)	南相馬出発、陸路仙台空港へ 神戸空港到着 ピースボート(パシフィック・ワールド号)に乗船 船内ツアー
7月31日(水)	洋上	語学講座に参加 卓球大会に参加
8月1日(木)	済州島(韓国)	世界遺産・城山日出峰を訪れるツアーに参加
8月2日(金)	洋上	水先案内人・けん玉パフォーマンスコンビ「ず〜まだんけ」さんのワークショップに参加 船長主催のウェルカムセレモニーに参加
8月3日(土)	舞鶴(京都府)	美山かやぶきの里と組子コースター作り体験のツアーに参加
8月4日(日)	金沢(石川県)	ピースボート災害支援センター(PBV)の協力で、能登半島地震で被害を受けた輪島市内の視察に参加
8月5日(月)	金沢(石川県)	兼六園、金沢城公園、ひがし茶屋街などを見学
8月6日(火)	洋上	水先案内人・関根健次さんのお話とともに、ドキュメンタリー映画「医学生 ガザへ行く」を鑑賞 船の操舵室を見学 「洋上夏祭り」に参加
8月7日(水)	小樽(北海道)	大倉山展望台、札幌市時計台など札幌市内を見学
8月8日(木)	函館(北海道)	函館山ロープウェー、五稜郭などを見学
8月9日(金)	洋上	今回の船旅の報告会と南相馬市の魅力を発信 「マスカレードパーティー」に参加 「エンターテインメントショー」を鑑賞
8月10日(土)	横浜(神奈川県)	ピースボート(パシフィック・ワールド号)から下船 横浜中華街を散策 陸路南相馬へ

※ピースボート日本一周クルーズ(2024年7月30日～8月10日/神戸発・横浜着 12日間)の旅程については、以下を参照：<https://www.pbcruise.jp/cruise/2024short/>

◆参加者（※五十音順）

泉田康貴（原町第一中学校：1年）
後藤想來（原町第一中学校：2年）
野口さらさ（原町第二中学校：2年）
藤田玲音（原町第一中学校：2年）
伏見小夏（石神中学校：2年）
水戸稀聖（石神中学校：2年）

◆引率スタッフ

澤田かをり（ピースボートスタッフ）／井上香澄（撮影・記録スタッフ）／佐藤慎司（南相馬こどものつばさ）

◆ピースボート事務局

越智信一郎／田中洋介／川崎哲（コーディネーター）

◆活動の記録

7月30日（火）／Day1／神戸出航日

ピースボートショートクルーズ2024年夏における「福島子どもプロジェクト」初日。「参加が叶わなかった人の分までチャレンジしたい」「巡り合った貴重な出会いを楽しみたい」「自分から話すのが苦手。この12日間で克服したい」など、それぞれの想いを抱えながら、プロジェクト参加の中学生7名は乗船の日を迎えました。

仙台空港を出発し、神戸港ポートターミナルに到着。「（港へ向かう）電車から見える船が大きく近代的で美しい」「動くホテルみたい」と表現する子もいるほど初めて見るクルーズ船に胸を高まらせながら、いざ乗船。



船内での初めての食事をしっかり楽しんだ後は、船内ツアーへ。「前方はどっち？」「今何階にいるんだっけ？」と確認しながら広い船内を探検しました。最後には、14～16時限定でオープンするアイスクリームバーの無料のバニラアイスで、歩き回った疲れた体にご褒美を。

いよいよ出港の時刻を迎えると、岸から次第に離れていく様子を目にもスマートフォンにも焼き付けるように、はじまりのこの瞬間を記録にも記憶にも刻み込んでいる様子でした。

まだわからないことも多い乗船初日の船内でも、子どもたちのチャレンジや冒険はすでに始まっていました。

ある子は、船内の外国人クルーの多さに驚き。クルーに声をかけられた際に自分のジェスチャーが通じたことがうれしく、「もっとコミュニケーションを取りたい」と意欲が湧いたと言います。

また、夕食時に1人でコース料理に挑戦した子も。隣に座られたご乗船者に注文方法を聞き、初めてのフルコースをしっかりと堪能。「Tea or Coffee?」という英語の質問に戸惑い、咄嗟に「Coffee」と答え提供された「くそ苦いコーヒー」の味はきっと忘れることはないでしょう。

長かった1日の終わり、「伸び盛りの今、明日からもぜひ積極的に自分からチャレンジしてほしい。好奇心は自分の幅を広げてくれる。見て感じて記憶に留めてほしい。」と「南相馬こどものつばさ」事務局長の佐藤さんは子どもたちに伝えました。

7月31日(水) / Day2 / 洋上日

洋上日のこの日は、船内新聞を片手に、それぞれの心の向くまま船内イベントを楽しみました。その中でも、卓球大会や語学講座などを通じ、言語を超えた交流ができた子どもが多かったようです。

「笑顔で目を合わせて会話して、楽しい時は体で表現すると、台湾の人とも仲良くなれて一緒に卓球もできた」「語学の講座を通して知らない人と話す機会があり、仲良くなれた」「掃除に来てくれたクルーとは、日本語も英語もなかなか通じなかったけど、フレンドリーなクルーのおかげでなんとかコミュニケーションが取れてうれしかった」など、心で通じ合った喜びをしっかりと胸に刻んでいました。

また、関門海峡を通過したこの日は、洋上から見える景色も楽しみました。特に、水平線に沈む夕日は「人生で初めて見た。本当に美しかった」と心を打たれた様子でした。

明日はいよいよ、今回のクルーズで初めての寄港地日。韓国の済州島訪問を前に、子どもたちの多くは韓国語講座を受講。「韓国に行けるのが楽しみ。使える簡単な言葉を学べたので、ぜひ使ってみたい!」と、ますます楽しみが膨らんだようでした。



8月1日(木) / Day3 / 済州島

オプションツアー参加【世界遺産・城山日出峰をゆく済州島観光】
※訪問地：城山日出峰、済州海女博物館、済州東門市場

初めての寄港日に子どもたちが訪れたのは、韓国・済州島。世界遺産や韓国の食文化を感じられる市場を訪問するオプションツアーに参加しました。

最初に訪れたのは、韓国で初めて世界自然遺産に登録された「城山日出峰」。標高は182メートルですが、約10万年前の海底噴火によって生まれた巨大岩山を前に、子どもたちはみな圧倒され、「自分は体力がないから山頂までは無理だと思った」という子も。

「きつくてやめようと思った」「階段が急できつかった」「だんだん足が疲れて息が切れた」「日差しも強くて」と苦しみながらも、互いを気かけ合いながら協力し、見事に全員が登頂を果たしました。頂上に着くと、頑張ったご褒美に最高の景色が待っていたようです。「着いた瞬間きれいで、見たこと



のない景色に感動した！」「下から見るよりきれいだった！」「無理だと思っていたのに山頂まで行けて達成感があった！」と、7名全員が感動を報告してくれました。

昼食には、韓国の定番料理「サムギョブサル」を堪能。自分ではなかなか切れなかった豚の塊を、お店のお姉さんがハサミでスパスパと切る様子に驚いた子も多かったようです。また、初めて味わう青唐辛子に「勧められて食べたら喉が焼けた」「本当に辛かった！」「2本食べられた」など各々の感想が。異国の食文化を、五感をフル活用して楽しんだようです。

また、東門市場での買い物の際には、「前日の韓国語講座で学んだ『얼마예요? (オルマエヨ/いくらですか?)』を使ってお店の人とコミュニケーションを取ってお土産を買えてよかった」と、学びをすぐに実践に移した子もいたようです。

余ったウォンを使い切ろうと購入したたくさんの韓国のお菓子で、夜にはお菓子パーティまで開催し、充実した1日となりました。

8月2日(金) / Day4 / 洋上日

乗船2日目にけん玉パフォーマンスコンビ「ず〜まだんけ」のショーを見て魅了された子どもたちは、この日「けん玉体験ひろば」へ。「ず〜まだんけ」のお二人にご指導いただきながら、新しい技を習得しようと黙々と真剣に挑戦し続ける姿は、本当に惚れ惚れするものでした。

「周りの人は早く技を習得できていたのに、自分はなかなかできなくて悔しかった。あとで1人で練習したらできてうれしかった。諦めないことは大切だと思った」と話してくれた子もいました。

夜には船長主催のウェルカムセレモニーに参加。思い思いのおしゃれ着に着替えてパーティ会場へ。ウェルカムドリンクをいただけたり、ミュージシャンによる生演奏があったり、ドレスをお召しになるご乗船者も多くいたり、想像以上のフォーマルな雰囲気に驚いた子どもたちも多かったようです。「あいさつくらいかと思っていたら、とても盛り上がっていた！初めての経験で楽しかった」と、感想を聞かせてくれました。



ちなみに、船内での洗濯は子どもたち自身で行います。「洗濯をしていたら(朝に計画した)予定が狂ってしまった」という子も。親元を離れた生活の中で、失敗や成功を繰り返しながら、日々生きる力を養っているようです。

8月3日(土) / Day5 / 舞鶴

オプションツアー参加【美山かやぶきの里と組子コースター作り体験】
※訪問地：道の駅・美山ふれあい広場、美山かやぶきの里

舞鶴に寄港し、全員でオプションツアーに参加しました。訪れたのは、舞鶴の道の駅・美山ふれあい広場と、美山かやぶきの里。

道の駅・美山ふれあい広場では、野菜やクッキー、アイスなどが売られており、猛暑の中のツアー中にソフトクリームで一息ついた子どももいました。「クリーミーでおいしかった」「濃厚な牛乳の味がして、暑い日には絶品だった」と感想を聞かせてくれました。

美山かやぶきの里は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、多くのかやぶき民家が現存されている観光地です。日本の原風景が残る貴重な場所を訪問した子どもたちは、かやぶき屋根の家屋の仕組みなどを学びました。「大きな針を縫って作った屋根が、20年から40年も使えるのはすごいと思った」「住みにくいのではないかなと思ったけど、意外と中が涼しい」「屋根の厚さにびっくり。雨にも耐えられるのがすごい」と、日本の伝統的技法や工夫に驚いた様子でした。

昼食では、そばや京都の郷土料理「納豆餅」を楽しみました。特に、「納豆餅」は子どもたちに強い衝撃を残したようです。「納豆餅」は納豆を餅で包み焼いたもの。「意外とネバネバがなく、甘醤油みみたいなタレをつけて食べると美味しかった」「ネバネバした納豆は苦手だけど、この納豆餅だったら好きになれた」と話していました。



さらに、組子コースター作りではまず、製作に1年かかったという組子の「シャンデリア」を見て驚愕。その職人技に刺激されたのか、コースターづくりの中で新たな波紋のデザインを編み出し、職人さんを驚かせる場面もありました。世界に一つだけのお土産を手にして、舞鶴を後にしました。

さらに、組子コースター作りではまず、製作に1年かかったという組子の「シャンデリア」を見て驚愕。その職人技に刺激されたのか、コースターづくりの中で新たな波紋のデザインを編み出し、職人さんを驚かせる場面もありました。世界に一つだけのお土産を手にして、舞鶴を後にしました。

8月4日(日) / Day6 / 金沢(1日目)

能登・輪島市視察

訪問地：道の駅輪島、大屋小学校（避難所・仮設住宅）、輪島朝市、名舟港、千枚田、まちの湯など

金沢に寄港した初日は、今年1月1日の能登半島地震で被害を受けた輪島市内を視察しました。ご案内くださったピースボート災害支援センター（PBV）の現地スタッフからの「輪島の空気をたくさん吸って帰ってほしい。そして、伝えてほしい」という言葉から始まった視察。市外へ避難した方も多く、子どもの声もめったに聞こえない静かな静かな輪島市で、子どもたちは復興を目指す街や人と真剣に向き合いました。

NGO ピースボートの Facebook ページにも掲載したプロジェクト参加者・伏見小夏さんの記事で視察の様子を報告します。

---記事ここから---

今日、私たちが訪れたのは石川県の輪島市。能登半島地震で倒壊した建物の視察や、復興・復旧に努める輪島市民の方々、ピースボート災害支援センター（PBV）の方々のお話を聴いてきました。

最初に金沢市から輪島市へバスで移動し、地震で倒壊した建物や避難所となった学校、仮設住宅を見せ



てもらいました。「テレビで見ていた街の様子とは違い、復興はまだまだ進んでいない」という街の現状を知り衝撃を受けました。

その後は輪島市に災害支援に行っているPBVの方々のお話を聴きに行きました。段ボールベッドに座ったり、仮設の銭湯を見たりと、復興の状況をより深く自分たちの目で見て感じました。被害が残っている中、輪島市に残り市民でコミュニティを作って何とか生活している様子、少ないながらも街に残り生活している方々を見ると、もっと能登半島地震のことを周りに伝え「私たちにできることは何か?」を考えるきっかけとなりました。

ゆっくりとした時間の中で少しずつ復興をしていく様子を見ることができ、とても貴重な体験が出来たと感じました。この体験を基に大人になったときに再び輪島市を訪れ復興支援をしたいという一つの目標もできました。

また、「不便でも良いからもう一度輪島市に帰って来たい」という声を聞いて「新しい街作りをする」という目標があることを知り、今回の能登視察で知った復興支援の進め方やコミュニティでの生活の仕方を南相馬市の復興に落とし込むと共に、次に災害が起こった際に実践していきたいと思いました。

---記事ここまで---

この日の振り返りミーティングでは、ほかにも以下のような感想が聞かれました。

「車もまだそのまま下敷きになっている家も。何とも言えないくらい、まだまだすごく大変」
「震災から7~8か月たっても、まだ建物が倒れたまま手つかずで多く残っている。それだけ強い地震だったのだとも思ったけど、そこに政治が貢献しないのはどうなのかな」
「福島の震災では、5か月後には少しずつ建物も直していきっていたそうだが、能登はまだ進んでいないなと思った」
「(避難所となっている大屋小学校の) 澤田さんの話を聞いて、震災当時は物資の確保も大変だったんだなと知った」
「どこを見ても崩れている箇所があり、テレビで見るより被害の大きさがひどいと感じた。(震災)前に戻すのではなく、(復興後は)前よりもいい形になればいいなと思った」

引率の佐藤先生の「南相馬市に帰ったら、今日見たことをどう伝えたい?」との問いには、「『まだ終わっていない』と伝えたい」「時間が経つにつれて記憶が消えてしまう。今まだ困っている人がいることを伝えて支援したい」「南相馬市から物資を送れないかな」との意見が。また、「親は東日本大震災のことを知っているから、能登のことを伝えた時にどう思うのか知りたい」という声もありました。

佐藤先生は一つ一つの意見に丁寧に耳を傾けながら、「澤田さんのお話にも合ったように、身近に起こった問題をどう克服するか、どう問題の解決にあたるのかが重要。一人で考えてもいい考えは浮かばない。このように意見を出し合うことでより良い解決策が見つかる。いい案が見つかったらすぐ行動に移せる人になりましょう。まずは、今の事実をみんなに伝えることが最も効果があり大事なことです」とミーティングを締めくくりました。

家族や先生方から幾度となく聞いた「東日本大震災」、実際に足を運び自分の目で見た「能登半島地震」。この二つの震災は、子どもたちの胸にどう刻まれ、どんな大人に成長していくのでしょうか。



8月5日(月) / Day7 / 金沢(2日目)

自由行動

訪問地：兼六園、金沢城公園、ひがし茶屋街、泉鏡花記念館、映画館など

プロジェクト7日目は、金沢市内での自由行動でした。船内で配布されていた「金沢市観光ガイドブック」とにらめっこしながら、前日からどこを見学しようか自主研修の計画を立てました。

ただ、いきなり計画通りにいかないハプニングが発生。日本三名園のひとつ「兼六園」だけは全員でバスで訪れる予定でしたが、港からのバスが出ていなかったのです。そこで、公共シェアサイクル(電動自転車)組と、タクシーやバスを利用するグループに分かれて出発することに。なんとか無事に兼六園で合流することができ、記念写真を撮りました。

兼六園は人の手によって作られた庭ながら、自然の中に包まれたやすらぎを感じる場所でした。「普段の公園では見られない植物もあった。暑かったけど、緑がたくさんあり癒され、心が安らいだ」「庭がすごく広がった。たくさん歩いたと思ったが、周れたのは五分の一だけだと聞いて驚いた」「計算されて植えられた木々がきれいだった」と、なかなか訪れることのない日本庭園の美しさを味わいました。その後は、それぞれに自由行動を。



バス班は、「ひがし茶屋街」や「泉鏡花記念館」を訪れました。「ひがし茶屋街」は、「まるで江戸時代にタイムスリップしたような気持ちになる場所」だったそうで、昔ながらの良い雰囲気の中で抹茶餅や金箔のソフトクリームなど、各々に好きなスイーツを堪能しました。「一口一口味わって食べた」「今までで一番美味しかった」とたくさん写真を見せてくれました。また、「泉鏡花記念館」を訪問し、浪漫と幻想の作家・泉鏡花(1873-1939)について学びました。「まだ読んだことがないので、帰ったら調べて読んでみたい」「小説がどんなに好きでも300冊もかけるのはすごい」と学びを共有してくれました。

自転車班は、金沢城公園を散策した後、映画館で公開されたばかりのアニメ映画を鑑賞しました。金沢駅でもう一方の班と合流するまで自転車での旅を楽しみましたが、一時は方角がわからなくなり「迷子になりかけた」とか。「地図を見る力が大切だなと感じた」と、逆に貴重な学びの機会となったようです。迷いつつも無事に集合時間に合流でき、元気に船に戻りました。

初めての寄港地での自由行動でしたが、仲間と協力し合い、初めての土地を臆することなく満喫した様子でした。

8月6日(火) / Day8 / 洋上日

プロジェクト8日目ともなると、洋上での生活にも慣れ、自主性も増し、各々が自分の好きな形で船内生活をアレンジできるようになりました。

プロジェクト6日目に行った能登視察で災害支援や防災・減災に興味を持ちPBVの講演に参加した子どもは、「防災の工夫を教えてもらったので、命を守るために実践したい」と、意識がぐんと高まった様子でした。また、ドキュメンタリー映画「医学生ガザへ行く」を観る人、船内イベントのお手伝いボランティアをする人、お気に入りの交流スポット(将棋や麻雀などのゲームエリア)に行く人など、自分の興味関心の向くままに船内を楽しみました。





また、特別に操舵室見学にも参加。パシフィック・ワールド号の船長にお会いし、船がどのように動いているのかを学ぶことができ、貴重な時間となりました。

夜は、ピースボート企画の「洋上夏祭り」に参加。浴衣や甚平姿の方がたくさんいたり、屋台が出たり、輪になってみんなで盆踊りをしたりと、普段とは違う雰囲気を楽しみました。

さらには、プロジェクトに参加した中学生の1人がフルート奏者として「芸達者祭」に出演。船内でも熱心に練習に励んでいただけであり、準備期間も限られていた中で、堂々と1人で演奏を行いました。お祭りの後、「とても緊張したけど、夏祭りが終わった後に『上手だったよ!』『フルート吹いてた子だよ?』と声を掛けられてとても嬉しかった」と話してくれました。

8月7日(水) / Day9 / 小樽

オプションツアー参加【札幌名所めぐりと海鮮丼ランチ】

訪問地：大倉山展望台、北海道神宮、札幌市中央卸売市場、札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、札幌大通公園散策、白い恋人パーク

小樽に帰港したこの日は、プロジェクト参加者全員で、札幌の名所や名物を楽しめるオプションツアーに参加しました。NGOピースボートのFacebookページにも掲載した、プロジェクト参加者・水戸稀聖さんの記事で、ツアーの様子を報告します。

---記事ここから---

最初に訪れたのは、1972年に札幌冬季オリンピックでスキージャンプの会場となった「大倉山展望台」。山頂に登るためにリフトを使い、大倉山の自然と空気を楽しみながら登っていきました。山頂からの眺望は言うまでもなく爽快で壮大。札幌の街を一望することができました。望遠鏡を使って街を見渡し、「すごい!めっちゃ見える」「札幌ドームも見える」という人もいました。

昼食は北海道の名物「海鮮丼」を堪能。マグロにサーモン、エビ、いくら、カニ、ウニ、アワビなど様々な種類の新鮮な海鮮を楽しみました。初めて食べる物も多く、「初めてだけど、思ったより美味しかった!」「結構口にあった」「何これ!?美味しくないと様々な感想がありました。この海鮮丼は一生忘れられない味になりました。

次に訪れたのは「札幌大通公園」。公園付近には「さっぽろテレビ塔」や「札幌市時計台」などがあり、1時間班別自由行動をしました。まず初めにさっぽろテレビ塔の近くまで行き、僕はソフトクリームを食べました。札幌市時計台では、様々なフォトスポットで写真を撮る姿が見られました。公園内の噴水で一休み~と思ったら、シャボン玉を出してくれる人を見つけ、休む暇もなくみんなで写真を撮りました。

最後に訪れたのは、北海道の名菓「白い恋人」を作っている工場内を見ることができる「白い恋人パーク」。外観はとてもオシャレで可愛く「まるで19世紀のヨーロッパにタイムスリップしたみたいだ!」という人もいました。建物の中もまるでディズニーランドのようで驚きました。実際に白い恋人を作っている工場を見学し、「機械でスムーズに作っていてすごい」という人もいました。ここで土産を買う人も多く、様々な種類の「白い恋人」のお菓子やキーホルダーを買いました。



最後にはバスの中から「小樽運河」を見ることができ、とても貴重な1日となりました。

---記事ここまで---

このように、札幌の魅力が凝縮したツアーに参加した子どもたちは、たくさんの「初めて」を一気に吸収し、おなかも心もいっぱい満たされ、船に戻りました。暑い暑い一日ですすがに疲れたかと思いきや、船内での夕食もそれぞれしっかり食べ、明日の函館に備え就寝となりました。



8月8日(木) / Day10 / 函館

自由行動

※訪問地：函館山ロープウェー、五稜郭、金森赤レンガ倉庫、元町地区（八幡坂）など

函館に寄港し、この日は市内を自由行動。北海道・函館が舞台となっている、大人気アニメ「名探偵コナン」の最新映画「劇場版『名探偵コナン 100万ドルの五稜星（みちしるべ）』」を乗船前に観ていた子どもたち。作品に登場した「100万ドルの夜景」が見られる函館山展望台、五稜郭、八幡坂などで「聖地巡礼がしたい！」と、乗船前からこの日を心待ちにしていました。

函館山展望台へは、プロジェクト参加者全員で行くことに。下船し函館市内を少し歩くと、至る所に「名探偵コナン」のポスターが。高揚した気持ちとともに、ロープウェイに乗り展望台に到着すると、そこには映画で観た通りの絶景が。「映画では、あそこで〇〇が〇〇してたよね！」「100万ドルの夜景が見たかった～」などと話しながら、聖地を写真に収めていました。

晴天にも恵まれ、函館の地形も明瞭に見ることができたことで、「展望台から見て右側は山が広がっていたけど、左側はビルが多くあり都会の雰囲気、左右の差に驚いた」との感想を聞かせてくれた子どももいました。また、停泊中のパシフィック・ワールド号も、きれいに眺めることができました。

ロープウェイを降りた後は、自由行動。3つのグループに分かれて、函館市内を散策しました。

歩いて五稜郭を目指したグループは、さすがに足がきつくなり路面電車を利用するプランに切り替えるという機転を利かせ、無事に五稜郭へ到着しました。コナンの映画で観ていた五稜郭に、実際に自分の足で来られた感動を味わいつつ、五稜郭内にあるブラッケーリ砲を見て「戦争ってやっぱり怖い」と感じたとのこと。

五稜郭のみならず、コナンの映画でも登場した元町地区（八幡坂）も訪れたグループは、坂の下にちょうどパシフィック・ワールド号が見える八幡坂の絶景に興奮し、何枚も写真を撮影しました。

さらに、ペリー広場や御殿山第二砲台跡を一人で目指した子どもは、通行止めなどのハプニングもありながらも、諦めずに目的地を目指しました。また、おすすめされた大人気ご当地ハンバーガー店「ラッキーピエロ」の長蛇の行列にもめげず、函館を訪れた人しか味わえない名物を唯一しっかり堪能しました。

それぞれの形で最後の寄港地を思う存分楽しみ、初めて訪れる土地での公共交通機関を利用しつつも決められた時間には全員がきっちり船に戻ることができました。



8月9日（金）/Day11/最後の洋上日

最後の洋上日となるこの日は、「福島子どもプロジェクト」による船内企画「旅の報告会と南相馬市の魅力発信」を行う、子どもたちにとって大切な日。洋上日が少なく、準備期間も非常に限られる中で、地元・南相馬市に訪れてくれる人が一人でも増えるようにと魅力を考えたり、12日間のクルーズで経験したことをまとめたりと、3日ほど前から一生懸命に取り組んできました。

ただ、本番当日に起きてほしくないハプニングが。ここまで気候にも恵まれ穏やかに過ごしてきた船内でしたが、太平洋に入ったこの日は激しい波による揺れで船酔いの人が続出。「揺れで眠れなかった」と朝からぐったりしていたり、日中も船室から出ることすら難しい子もいたり、ある意味で船旅ならではの貴重な経験をしました。



船酔いのため参加できない子どももおり、全員での登壇はかないませんでした。ただ、お互いにカバーしあい助け合いながら、直前まで協力してバタバタと準備し、なんとか本番を迎えることができました。

はじめは、「旅の報告会」。各寄港地や船内での経験について報告しました。中学生らしい等身大の正直な感想は、参加者を和ませ、何度も笑いが起きていました。また、後半は「南相馬市の魅力発信」を。南相馬市の行事や名物、施設について説明しました。国の重要無形民俗文化財に指定されている福島県・相馬地方の伝統の祭典「相馬野馬追」や、全国でも有数のサーフスポット「北泉海水浴場」、福島南相馬市のソウルフード「手造りアイスまんじゅう」などを写真とともに紹介すると、「ぜひ南相馬に行ってみよう」というお声も多く上がりました。充実した1時間の企画を終えると、会場は大きな拍手に包まれました。



子どもたちからは、「発表が終わってから『すごい良かったよ』『頑張ったね』と言われてとても嬉しかった」との感想が聞かれました。発表が終わりホッとしたのか、すぐに船室に戻りたっぶり仮眠を取ったとのこと。

夕方には、フェアウェルパーティーとして「 mascarade パーティー」が開かれました。華やかな衣装や mascarade マスクで仮装した方々が音楽に合わせて踊り、船内は一気に舞踏会の雰囲気は一変。船内企画で自ら作成した mascarade マスクを着けて参加した子どももおり、「意外とマスクで視界が悪

い(笑)」と話しながらも、「不思議な感じでおもしろかった」と初めての「マスカレードパーティー」を楽しんだ様子でした。

夕食後は、船内最後の企画「エンターテイメントショー」を鑑賞。本格的なマジックや太鼓の演奏、日本舞踊、アイヌの輪唱などで大いに盛り上がりました。特に、船内企画で何度も直接ご指導をいただいたけん玉パフォーマー「ず〜まだんけ」による最後のステージは、大きく船が揺れる中でキレイのある技の数々をご披露くださり「今までで一番カッコよかった」と、プロフェッショナルなパフォーマンスに痺れた子どもも多かったようです。

この日の夜は、プロジェクトに参加した仲間との時間を惜しむように別れを惜しむように、船室に戻るギリギリまで、余ったお菓子を囲み楽しい時間を過ごしました。

8月10日(土) / Day12 / 横浜帰港日

洋上最後の夜をしっかりと楽しんだ子どもたちは、朝からとても眠たそうそんな中でも、午前10時すぎにはとうとう12日間を過ごした船からお別れです。自分自身や家族、友人、部活の仲間、先生方へのお土産があふれ、持ってきた鞆に入りきれないほどの荷物を抱え、全員無事に横浜港大さん橋国際客船ターミナルにて下船しました。

ただ、最後の寄港地・横浜を楽しみ尽くすまでは、子どもたちのクルーズは終わりません。下船後に早速「横浜中華街」へ向かい、中華料理を満喫しました。観光客も多く、ぎらぎらとした日差しが降り注ぐ中での短時間の滞在でしたが、ここでもさらにお土産にシウマイ等を購入する子どももいるほど、しっかりと楽しむことができたようです。ここからは、ご家族の待つ南相馬市までの大移動。大荷物を運びながらいくつも電車を乗り継ぎます。東京駅でピースボートスタッフとはお別れし、特急ひたちで12日ぶりの南相馬市へ降り立ちました。



帰着式では、早速クルーズでの出来事を報告。たくさんの思い出や感情がギュッと詰まった12日間の船旅が終わり、自宅に戻ると、船が恋しくなったり寂しくなったり悲しくなったり…。荷解きをしながら家族にたくさんたくさん思い出話をした子どももいたとのこと。

明日から、子どもたちは元の生活に戻ります。ただ、12日間のクルーズを通しての出会い、経験したこと、感じたこと、五感を使って吸収したことは、間違いなく子どもたちの記憶に刻み込まれていることでしょう。

メディア掲載情報

2024年9月6日（金）：福島民報 掲載

韓国や輪島訪問、視野広がった 「ピースボート」参加の福島県南相馬市中学生 市長に成果を報告

9/6(金) 16:39 配信  

 福島民報



プロジェクトの報告に臨んだ中学生ら

国際交流NGOピースボートとピースボート災害支援センターの「ピースボート福島子どもプロジェクト」に参加した福島県南相馬市の中学生は4日、市役所を訪れ、門馬和夫市長らに活動を報告した。

プロジェクトは7月30日から8月10日までの日程で行われた。兵庫県の神戸港からクルーズ船に乗り、世界自然遺産の韓国・濟州島や京都府舞鶴市、石川県金沢市、北海道の小樽市、函館市などを訪れた。南相馬市のNPO法人南相馬こどものつばさの協力で原町一、原町二、石神の3中学校の1、2年生7人が参加した。

寄港先の都市の歴史や文化に触れた他、石川県では輪島市を訪問し、能登半島地震の被害の状況を視察した。船上では同じコースのツアーに参加した国内外の乗客と交流し、語学の勉強や平和学習などに励んだ。

市役所を訪れた7人は門馬市長や大和田博行市教育長らと懇談した。「世界の人とふれあえて良かった」「英会話に挑戦した」「輪島市ではまだ復興の進んでいないことが分かった」など感想を発表した。船内で南相馬市の魅力を紹介する機会があったことも伝えた。

南相馬こどものつばさの佐藤慎治事務局長は「プロジェクトを通じて国際的な視野を広げることができた」とあいさつした。

助成金情報

今回のプロジェクトは、ラッシュジャパン合同会社様の「チャリティバンク助成金プログラム」の支援をいただき、実施しました。

旅の成果

- ・英語や他言語（韓国語、中国語など）に対する 学習意欲の高まりと、国際的なつながりを深めたいという気持ちが大きくなりました。
- ・世界の人々や文化について知識を深めたいという意欲が増し、異文化を知ることにより、逆に地元の南相馬市の歴史や現在の状況に興味を持つ意識が生まれました。

- ・仲間とともに活動することを通じて達成感や自信を得て、自己成長に対する意識を高めることにつながりました。
- ・他者との交流を促進するためのスキルを身につけたいという意欲や言語の壁を越えたコミュニケーション能力への関心が生まれました。
- ・SDGsなどの社会問題への意識が高まり、協力して問題解決に取り組む姿勢も生まれました。

◆参加した子どもたち、保護者の声（感想文より一部抜粋）

「中学生でこの12日間を過ごせたことは、私にとって『自ら行動すること』の大切さを教えてくれました」

「東門市場での買い物では、船内で学んだ韓国語のオルマエヨ？（いくらですか）を使う事ができ、韓国の店員さんも自分もとてもハッピーになりました」

「船の中では、パーティーに参加したり、外国の人とコミュニケーションをとったりして仲良くなったり、レストランでのマナーなどを少しだけ学べたりできて、とても良い体験ができました」

「12日間で沢山のひとと出会い、日常と違う生活を送ることで、想いを感じることは沢山あったと思います。今回の貴重な経験を今後に活かして行ってほしいと思います」

「子どもが一番楽しかったと言っていたのは組子でした。昔から木で物をつくっていたりするのが好きだから、体験させることができて良かったです」

◆引率スタッフより

「新たな発見の1日にしましょう」から始まる、「福島子どもプロジェクト」の船内での毎朝のミーティング。この言葉に促されるように、子どもたちは12日間のクルーズの中で毎日「発見」を、心に、目に、自分のスマートフォンに刻み込んでいるようでした。

初めて見る景色、初めて食べるもの、初めて経験すること全てに、素直な驚きや感動を共有してくれました。12日間も親元を離れ、自分の意思で行動した先の「発見」は、特別なものがあったのでしょうか。音楽やスポーツ、ジェスチャーや他言語、食事の席などで他のご乗船者やクルーなどとの交流を深め、自ら「発見」を探しにいくような様子も多々見受けられました。

また、寄港した土地のほとんどが訪れたことのない場所であった子どもたち。ただ、自由行動をした金沢や函館では、自転車やバス、電車を駆使して、自らの足で興味の向くままに新しい街を探検し、しっかりと楽しんで船へ帰ってくる姿はとて遅く見えました。

さらに、金沢に寄港した際の「能登視察」では、「テレビで見ていた印象と違って、まだまだ復興が進んでいない」現状にショックを受けつつ、自分たちの地元「南相馬市」にも思いを馳せる子どももいたようです。その日の振り返りミーティングでは、佐藤先生の「（被災した地元を）残るか去るか、（震災遺恨

を)残すか壊すか」など問いにしっかり耳を傾け、自分の言葉で思いを伝えてくれました。東日本大震災の記憶がない中学1、2年生の子どもたちにとって、「災害」や「故郷」を考える大切な時間になっているように感じました。

ピースボートクルーズの公式Facebook ページでは、ピースボートショートクルーズ2024年夏における「福島子どもプロジェクト」の様子を毎日更新しましたが、子どもたちの写真や記事を使用して更新することも多々ありました。また、子どもたちは毎晩の振り返りミーティングでその日最も印象に残った出来事を報告し合いました。このように、クルーズを通して、五感で吸収したことを毎日言語化し「伝える」ということにもチャレンジし続けました。下船後も、自分の感性や言葉を大切に、「伝える」ことを続けていってほしいと切に願っています。

(撮影・記録スタッフ 井上香澄)

初めて神戸ポートターミナルで対面したときに、全員の名前を当てられるように数日前から顔写真とにらめっこ(笑)ところが、マスクしている子も何人かいて正解率は80%くらいでした。いまでは、目をつむって声を少し聞くだけで100%当てられる自信があります。それくらい、7人の子どもたちは愛おしい存在です。

今回の旅は、寄港地でのオプションツアー以外は決められた行動はほとんどなく、船内生活も自主性に任せるというスタイルでした。大人だったらつい「この企画に行けばいいのに・・・」「絶対、この講座を17聞いたほうがいい」となりそうですが、無理に参加させてもその場にいるだけできっと頭には入ってこないでしょう。自分が行きたいと決めたものにはちゃんと参加している姿に、感心しました。

一方、輪島への視察は私がぜひ参加してほしいと勝手に組み込んだものではありません。この視察は、本当に「視察」がメイン。自分の目で見たものを、どうとらえるか、どう感じたか、それぞれだと思えます。テレビでの報道がすべてではない、実際に自分の目で見ることの大切さがすぐでなくとも子どもたちに感じてもらえたら嬉しく思います。

船内企画として行った「クルーズの報告&南相馬市の魅力発信」もすばらしいものでした。時間があまりない中での準備でしたが、発信したいことがきちんとまとまっていて、お互い助け合って、聞きに来てくれた方の心をはがっちりつかむ内容でした。一番近くで聞いていた私の心もがっちりもっていかれ、必ず南相馬市を訪れたいという気持ちになりました。

12日間という短い旅ではありましたが、子どもたちにとって思い出したくなる夏であることを願います。そして、これから子どもたちが自分を大切に、様々な経験を重ねて成長していく姿を楽しみにしています。

(ピースボートスタッフ:引率スタッフ 澤田かをり)

東日本大震災と原発事故から13年が経過しました。福島県全域にあった汚染土の仮置き場から、隣町の間蔵施設へ移送する大型輸送車が行き交う姿も見ることがなくなり、平常の生活にもどつつあります。しかし、汚染水処理の問題や燃料デブリの処理など課題も残されています。そして、風評被害で停滞している地元の産業をいかに活性化していくか、これからも考えていかななくてはなりません。

今回その様な環境で生活している中学生を参加させて頂いた「福島子どもプロジェクト2024夏」は、12日間の船旅で、韓国をはじめ7カ所の寄港地でそれぞれの地域の文化や自然、産業に触れる事ができました。そこでの発見や感動は、地元南相馬市を改めて見つめ直すきっかけとなりました。最終日の船上報告会では、各寄港地での体験や感想を発表するほかに、南相馬市のPR発表もすることとなりました。

船内では、韓国、台湾、中国はじめ多くの海外の人々と交流する機会もあり、子ども達は今回の体験で「もっと海外の人達と話せるようになってみたい」と語学への意欲や、海外への興味関心を深めることができたようです。また、第一線で活躍していた日本人の年配者も多く、その方達と一緒に食事をしながらお話をしたことも新鮮だったようです。

一日中船内で生活する日もありました。そんな日は、国内外の各分野の専門家の方たちが水先案内人として、訪問する国々の文化や社会問題をわかりやすく、かつ鋭く語る講座やイベントがいくつものスペースで開催していて、興味のある講座を選択して参加できる企画が準備されていました。その他に船内では映画上映やパフォーマンスショー、音楽コンサート、ダンス講座、プールで過ごすこともできました。子ども達にはプールが一番人気になるのではと懸念していましたが、色々な講座やイベントに参加して刺激を受けていたようです。

今回の12日間の船旅により、子ども達が地元では出会うことのできない人々との交流ができ、国際的な視野を広げることができました。その経験は復興半ばの南相馬市の明るい未来を切り拓く大きな力となることと思います。

最後に今回のツアーにご協力くださったピースボート、ピースボート災害支援センターの皆様、ラッシュジャパン合同会社様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(南相馬こどものつばさ：引率スタッフ 佐藤慎治)